



齋藤信治 議員
(WAKABA)

問 隼人堀川にカメが

隼人堀川にカメ(アカミミガメ)が多数生息するようになった。そこで、生態系が攪乱かくらんされているか実態を調査・把握したうえで
①個体数削減のための捕獲
②増えないための対策
③生物多様性地域戦略の策定
以上3点を実施できないか。

答 終生飼養を推進していく

①カメの捕獲は、実被害の把握ができた段階で検討していく。②動物の愛護と適正な飼養に関して普及啓発を行い終生飼養を推進する。③第2次白岡市環境基本計画に基づき、生物多様性を保全・創出するために、市民・事業者等と協働による取組を進めていく。

問 児童・生徒を中心に校則の見直しを

子どもの権利条約にあるとおり、子どもが声を上げ、子どもが議論し、子どもが納得するように校則を見直さないか。LGBTQの観点から制服の見直しも必要ではないか。学校の中心は子どもである。子どもが楽しく生き生きと学校生活を送れる校則にしないか。

答 必要に応じて校則の見直しを進める

現時点では必要かつ合理的な範囲を逸脱した校則は確認していない。校則は生徒に機械的に守らせるのではなく、生徒が自分のこととしてとらえ、自主的に守るよう指導していく必要がある。社会の常識や時代の進展などを踏まえ、必要に応じ校則を見直していく。



渡辺聡一郎 議員
(新風の会)

問 大山菁莪地域の将来を見据えた政策は

大山菁莪地域で今後10年どういった取組を進めていくのか。両地域の持続的な将来像を考えるべきだ。優良田園住宅制度を活用し、自然環境を守りながら定住できる仕組みづくりを進めるなど、地域の人口を維持していくための政策が必要ではないか。

答 地域の魅力向上に向け調査研究する

大山菁莪地域において人口を維持するためには、地域の魅力向上を図ることが必要である。地域で育った若者にそのまま住み続けてもらうことや、移住などを促進するために優良田園住宅制度を含め、地域の魅力向上につながる取組を調査研究していく。

問 駅の利便性向上を

駅の利便性向上に向けてJRにどのような要望活動を行っているか。また進捗状況は。実現するためには、単に要望するだけでなくJRと交渉することが必要。新白岡駅のホーム屋根延伸は長年の課題だ。市とJRで費用を出し合って実現することはできないか。

答 様々な機会を捉えて要望していく

毎年、埼玉県などを通して、駅のバリアフリー化などの要望を行っている。現時点では、具体的な整備うわやの計画等は示されていない。ホーム上屋は、鉄道事業者であるJR東日本に整備していただきたいと考えている。今後も、様々な機会を捉えて、要望していく。



新白岡駅のホーム屋根